

小間使の日記 (1964)

LE JOURNAL D'UNE FEMME DE CHAMBRE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス／イタリア
色彩 B&W
時間 98分
初公開日 1966/04/12
公開情報 A T G
映倫 G
リバイバル 1984/12 [フランス映画社]

【解説】

ジャン・ルノワールもハリウッド時代に、ポーレット・ゴダード主演で映画化（“THE DIARY OF A CHAMBERMAID” 後に「ジャン・ルノワールの小間使の日記」としてWOWOWで放映）したミルボーの後期自然主義の小説を、ブニュエルには原作からあまり離れずに映画化。J・モローを主演にすることで、スキヤングラスな雰囲気が出ている。パリからノルマンディの片田舎の貴族に奉公に来たセレスティーユを取り巻く、色情狂の夫人、靴フェチの隠居の家族、粗野で薄気味悪い下男などの、奇矯な人物像が面白い。その閉鎖的環境で起きた、少女暴行殺人事件を契機に、彼女の内面で何かが変わっていく。疑わしいのは下男のジョゼフなのだが……。ブニュエルが、製作のシルベルマン、脚本のカリエールと初めて組んだことでも記念すべき作品。以後、この黄金トリオは数々の傑作、問題作をモノにしていくことになる。

【クレジット】

監督	ルイス・ブニュエル	Luis Bunuel
製作	セルジュ・シルベルマン ミシェル・サフラ	Serge Silberman Michel Safra
原作	オクターヴ・ミルボー	Octave Mirbeau
脚本	ルイス・ブニュエル ジャン＝クロード・カリエール	Luis Bunuel Jean-Claude Carrière
撮影	ロジェ・フェルー	Roger Fellous
出演	ジャンヌ・モロー ミシェル・ピッコリ ジョルジュ・ジェレ フランソワーズ・リュガーニュ	Jeanne Moreau Michel Piccoli Georges Geret Françoise Lugagne